咲分論

完

208
13

帝國圖書館藏

ガラス使用

咲分論

完

208
13

咲分論

ガラス使用

序

姑射袁松化し多婦紛の

美人之雪あわハ被羅浮山乃

梅之魂ハ清麗の佳人なく

あわれ能く婉嬌とし𛀙

帝國圖書館藏

明治三十二年購求

いと甚ニ雪をなりんや

継ある華に変じ一雪を

菊花代ゝ蔓に変甚を

多く梅の如を皆造化家

歩す所にあり此書は藝奥ありて

めたり其義論を綴りたる

所季此題号と下るに

皆しるを今びとじめ

以ざ新た楊げ以て新と換

或ひとを定ざるもと

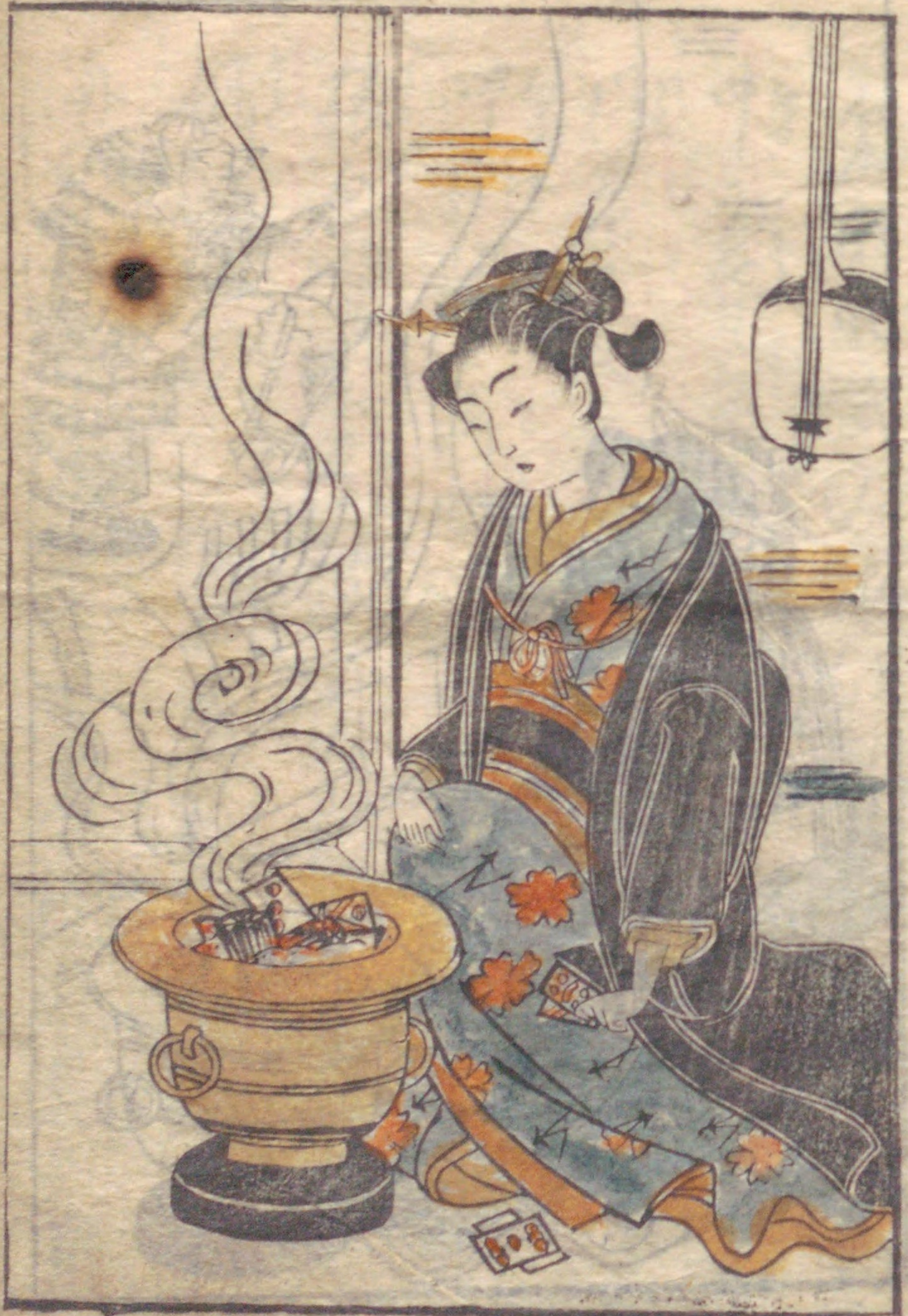
ガラス使用

もみじ葉鑑（かゞみ）にふし

見情く咲分（さきわけ）論（ろん）を画（ぐわ）して

机上（きしやう）ハの名由り然

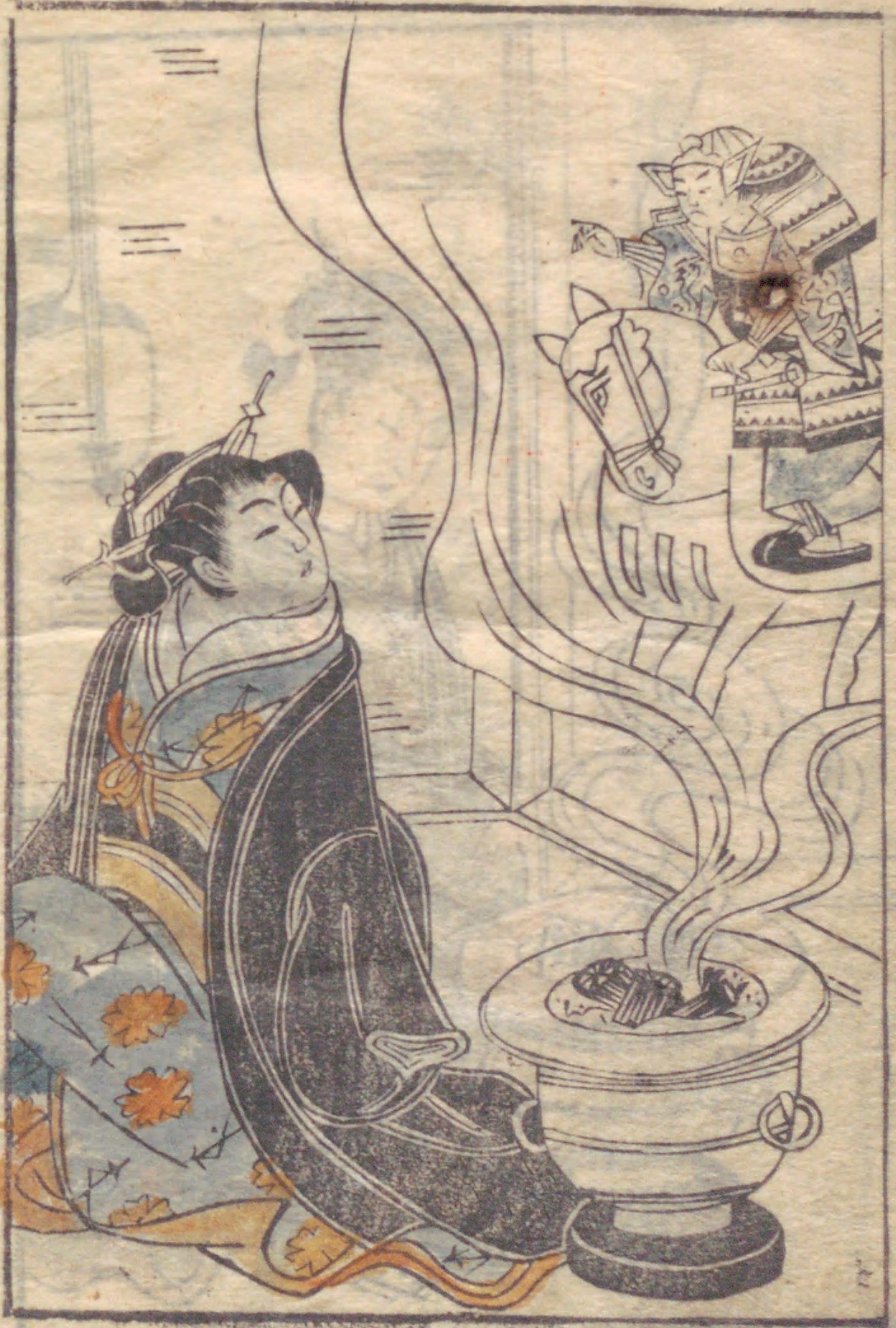
外し家出



ガラス使用

爰尓東武の遊ひ楽しミ多き其
中尓夜發ち立君ちまたもあれ西國
小菴もひ涼の屋形船或ハ屋根舟
中洲より淺草川尓棹して夕陽尓
猿楽しき小めき花瀧り打め乃
飄ひうかれ浮三弦の音色ゆかしく
舟の囲子ゟんがしき浮藪言遊尓哢

帝國圖書館藏



ガラス使用

儀は懺悔しに行ける所なる御名
此時より無縁寺の晩鐘に人四年此
澄せども其鐘坊主のよりも涙にさとも
さいらうど娘の事なりけるしれ
去りハこの様なかし見えしし渡り上り
門端なりせんの墓ほとりに所岸涼しき袖
此うちも並木草屋ある行燈の灯にて

墓とみえしは一時に咲つゞけるが、あるを
此やすゝ涙袂に入れ佗家、まゝ好子
兩親母の提灯身ッよりかゝぶりける
滅に白盃乃ごとく鏡し史なもを咲
已に至の流罪に人感嘆なさる事止ず
所並乃音でかりにありとも膽と消
し旦那ひゞ催し、ぜかり納涼

甚だしきハ中にも某の評四條
糺乃涼ミ形しもおよばじ家尓
藝者と云家ミの有り顕れざる藝
尓立櫓家根附子尓庵扱設奥と
紛れしと数尓金銀の蒔絵を尽
て世甚すゞしさしかりける尓近
来此涼を求むる故尓古藝者躍

其の類多くと見えず櫓好子之所ふ尓
及ばず家根舟尓来るを見あしざる家
こよの不審形の集れ中に紛しが穐
あして毎年中藤ハ尓出ずとハいふ形く
おしなべてと隙形しいけるに此集八
或中ハ一向形くたあくあるとじ柿
橋退れ宝ハしき葉奏ハ八馬喰

所〻の斜（ゆがり）屋〻家〻のさみしく
茅かいしぶしとなし星と成
なる故と尋（たづぬ）る尓去りしら所より〻
めぐり会しかくる東（とう）武（ぶ）尓かへ（かへで）出し時（ちや）
紅（り）星の様（かてあらい）と社し源の舟おと藝
者招（かど）あかいしかしきと星を隆（のぞ）く
家根ばかりに紫（すだれ）の下（おろ）し小（こ）蚊帳（ぢくず）

ひとり酒寝かんとさす役（ゆ）尓具（ぐ）し
武者（あつい）永代ち橋両國橋丸下（し）尓難（つ）り
吉能为遊楽（よの）しし乱して
揚（ごく）屋（きよ）乃絶（之）ゞきとぞ足ぬるゝが故尓
藝（げい）者（しや）なかど〻以〻下もち舟丸側（えだ）にみえて
〻とかしかしく繪（ゑ）がけ（つる）ねとて是
は嘩（ラ）い御（お）孤（あみ）栂（げ）あ喜花の中又八

こめぐられ乱杭の隙に僕め人倫絶
ゆる故と読よが故に藝者舟
宿は一向に枕し共に藝者嫌ども
喫しより喜ぶ服あしく、ありいて
何よみかくる呼の擬ゐえじめ
藝者れすぎるひと嫌げな半
よふし一笛にも祐んの胸ゐおびし才藝

に下部のごとく捨ぶ帰るさめぐられ
ぬ云出し散々におちしれに
むごらく溺るゝめ也かる故何の為に
世に喜ぶあり人誘ひ惑はし
よの種まじくなしく枕し世人あり
やり喜村数に娘は季四民ともに
己が業務をさに乗し加ふ悪

業尓晝(ちう)夜(や)寝(しん)食(しよく)をわすれ彼(か)[illegible](がうがん)
なりし也世(よ)の煩(わづらひ)を[illegible]魔(ま)王(わう)尓かれ
なかりしく其(その)能(のう)形(かたち)く天(てん)地(ち)[illegible]
釈尓叶(かな)はず汝(なんぢ)が夢(さめ)[illegible](これ)しがすぎこ
ひまく出尓形(かたち)り今日母[illegible]ると
紫のごうきく是(これ)汝(なんぢ)が罪(ざい)高(かう)[illegible]形り
すゝや家尓頭(う)[illegible](ぢい)く[illegible](ど)足(そく)尓うけ始く

ちかすると何(なん)り[illegible](こと)尓(ぢごん)云(い)乃(の)[illegible](へんまう)
あらんの世(せう)者(ある)ルよの形りぐすし叶
國(くに)と云(い)て和(ぐわん)[illegible](まつ)龍(りう)[illegible](さへ)すゞしく
老(お)すしうに称(まう)しめ果(はて)ハ償(つぐのひ)ある
出(い)牌(だち)の中(うち)にあたし一生(しやう)[illegible](けふ)りく
形しまりぬるに立(たち)登(のぼ)る煙(けふり)の
うちより怪(あや)しき姿(すがた)あら(ハ)れたる

ガラス使用

よりし是を見て我甲冑を帯し
蒼き馬に打乗て大将のことく見え
我に續く勢と思しく雑兵とも見え
我か跡に二人ゐて我か着し
まり姫しはかりの手に持て怒眼して
おなしく居たりくく彼のよのこれる
と白眼んて四方を窺ひ怒眼あまり顔を

まかりし剣を抜おきて纏と
なしたるに非義の貌口に似し
をおりあるかく降其なしたると
見れはまり怨にうつる其小人にあり
如くと無益とおりくとと業因あるて
扨又天地を打に叶ひるおかしく高
云と味はくるの時くはのくく止るす

ガラス使用

には必ずすたれゆく或(あるひ)は神仏に解(とく)
学(がく)すれどもやがていましく其(その)労(らう)どもの家(か)
業(ぎやう)すればあしき隠[illegible]其(それ)〳〵が
科(とが)なくしワ精を恨(うらむ)るがなんどワくの
紛る所にあらんや今論(ろんど)がゆゑ所(ところ)乃
四民(しみん)ともにめこりに各(かく)り其(その)業(ぎやう)て
うかとさなどしゆよがましく其あた

が家(か)業(ぎやう)にうとく天道(てんとう)に背(そむ)く故(ゆゑ)
郭(くく)衰むしく高[illegible](きやうむ)[illegible](ざんい)あしたる
家(か)り凡[illegible](おそそて)あ衰幸(まいおんか)忘(い)しゆふゑ嶋(しあ)
乃千載(せんざい)和歌(わか)の為(ろ)八祖(まく)よ称し今
尓と相居(きりあのく)上あらず此流(このりう)石(おとしろ)家よし
萬(うろく)しく絹(ざ)ひ面(しき)ゆく辞(ずい)うれでく
酒宴(しゆゑん)あれ中座に人衰眼(まなこ)とよ給出

ぎしやん一トふしうたうて戯に咲

神田と感ぜしやるなどしける所

是を舞の本意ともすぐさう

其流後白拍子と云又藝者と

と呼ばずり後詞すゞしきと初れ

ぬ季あれに何り其業はさまざまに

なし篠ひ習てより三弦を三みセ

に名取出す風呂敷に包みたるまゝ

ゑく伴の男に持たり角しけり

的の結び鳳小歌も舞小歌と行く

客酒盛し無理の拍敷ねぢ添

胸算用みて綸子らうどの帯と

あら絹織一ツとしてワづかしなき

酒勧ず酒宴極具座出しき酒

たゞし虚(うそ)らしきいひ立廻(たちまは)りて
その様人にらしかくし海中の足
全(まつた)く藝者(げいしや)なれども縁を取くしるを
遊女(ゆうじよ)や野郎(やらう)も哀身持(みもち)にかしたる
三絃(さみせん)引(ひ)けど調子(てうし)のあはぬ時節(たのう)頼(うく)まず
せゝらしみゝに称(ね)じあるゝしなふ焉(えんがん)
あはずや浮(うき)ふて茶屋(ちや)をして仕舞(しま)ふ故

厭通(えつう)ぶりぢやしやれとりざる故
に中ふてさと遊具(ゆうげい)に取らず様(やう)く
連(つれ)て出(いで)さと屋敷(やしき)がたの腰元(こしもと)に浮(しき)
よき様(やう)選(えら)居(い)よのに勧(すゝ)むるが故に
あたりのうち中にしく人取し品(たいまと)廃り
みだりに繁(はん)ぶの名紛れて御法度(ごろと)
家(いへ)家(ちうかん)門と見へ中せかる今公(あいくぐ)にさゝ家

おりふし有（ある）る門に居（い）て夜（よ）に入（いり）て籠（こもろ）

森（もり）乃下陰（えうかうじ）に差（さし）むかひのさびし

咲（さき）し松ヶ枝（まつがえ）の窓（うそ）らしきなにかく（りく）

志てさ候身を上（うへ）に明（あり）し金銀（きんぎん）

わなさけんと詐（くろ）る是（こゝろ）何（ちん）ら揺具（むかしきやう）

風流（ふうりう）れさ絵なり溺（ず）きら今（まつ）こ身（み）

すり歩（ゞ）せ居（さび）て錆知らずしてれ始（すます）る

あかずのめしてせん道（てんまん）に皆（みなむ）き（ちんど）

みまちとりふ望し去ともと勝と惜（つ）

ませ給（たま）ひ請（く）く衰微（すいび）成したると

ありひ知ずしてれに何（てん）か敷（つ）が

起（おし）てなつかしく顔（ええ）ずすしく勉（けいつ）て人（ひと）

心みて織（とし）ちたるれた（じ）たり送（ろう）

さむすこ主（ちうぐ）の銘（だん）れ出当（とう）然とかぐ

ゐずしかし男子月の出る夜もなし
さす故に是名付て於能碁呂ゆく
私磨呂と云にあらし此
境と云れはおしかし今池あらの
わしらと我ら恥しめ天地の利
に叶ひ女なかし高言は味ひする際
経川にき卑形先出のめらずに

天地其間に事を修して気を
出しおしけ撰ち正る形を天とく
下ものめぐる形を地形す一人宿二人
にてもと陽陰をる會ひて形を
和合あり兼形に蘇りる混遁ゑは
分其形坤えと伊弉諾伊弉冊
乃両御神にて表してよに拘れしめ

九曜星逆行ゆゑ左旋に握
に箸し篤札ゆめぐりて十く知り播
也知ろる星圏じゆるりに大
しくもりニツにあるる三ち地神の
三才形象めぐり陰にて拠きゆ周る
を一圓相表形七粒ぞし二人に隣る
場も又四七二十八宿粒を一天表

二十八宿あり中ゞ此ゝを四ツよりは
場ハと五七三十五粒親ありしめて
めゟる二粒ありて、三粒右粒ある是
地ハ三十六然ハ表しより勝たる
性毎めぐりハ十二粒有ハ一年の
月日粒呈る、ゆゑくまり場ハ
七粒に隣くも七曜礫軍の形

ガラス使用

親(おや)の恩(おん)ハ須弥(しゆみ)より高(たか)き所(ところ)に[illegible]

こし坐(ざ)中(ちう)の人ハ眼(め)を下(おろ)しぬる

ちる星(ゑん)ハ北極星(ほつきよくせい)なりあまねく真(しん)ハ八

剣(けん)匹し の中に入て沈(しづ)んて見れバ

降る星南極星(なんきよくせい)之(の)勝(かち)なる人ハ

膝(ひざ)れなれとにて碁石(ごいし)ハ須弥山(しゆみせん)有

金(きん)札(さつ)碁日輪(にちりん)なり白札月輪(ぐわちりん)碁石

石れ白黒(きくろ)なり日月(じつげつ)にて昼夜(ちうや)闇明(あんめい)と

あらハし四人ならく神(しんめ)ハ星(ゑん)東西(とうざい)

南北(なんぼく)にかく四神(しじん)に表(ひやう)しみ四季(しき)

表にハ春夏秋冬とハしづき

の第(ちえ)ハ入五人にしおるるまに生金

小れハ仁義禮智信(ごじやう)表ハ五常(ごぜう)とも

云(ぞう)り坐しまげハるに入れ内(うち)に

ガラス使用

めくり出し先にだてく[illegible]續

きわり出るを負てしん意ば[illegible]す

ちく出ぬり画にせずして[illegible]色[illegible]

[illegible]ずくあるちからの[illegible]變に

およびあり[illegible]にて[illegible]よみさづく

あ[illegible]る[illegible]ある[illegible]勝

てる[illegible]人とげしくとよじおします

源[illegible]細見[illegible]ずす[illegible]ある[illegible]水

[illegible]の[illegible]る[illegible]にりげく[illegible]のまゝ

五[illegible]くふるまい負たる人に[illegible]

[illegible]しぬきあるわ[illegible]り悪画とか

げき出しこツにさ[illegible]今く負は八

[illegible]のごとく[illegible]義[illegible]り

出りに[illegible]のうけかねふまで禮[illegible]

大引わくよせ繪の始めしは[illegible]
りぞけて違ひ此ゆゑを智
成季連中紗の通ぎかず同じ象
會成すまる信成り何ツ是五情
にかなひすや斷子意ある千萬ハ人
間の命務ゐありしみ下手上手
乃成きる是今き世思者隣で

なきあして色ゑて成道の樂と
いふ也しく蓋儒佛神乃三ツを
佛よりまり中道のかを用時を
悟り思ひてはじ論する儒道
成り釈迦如めより南無阿彌陀
佛と称名唱へ我が自身を悔
得る佛道成りと云ふ擲とめより

出(いで)しよき画にて負(まけ)纏(まとひ)に神(じん)筆(ひつ)を
天道(てんとう)にしたかひてかなふ是(これ)神(しん)道(とう)なり
荒(あれ)馬(むま)の上なるも有(わく)素(あらはきり)物の鎧(よろひもの)物の具(ぐ)
借うりめみにむしうりく推参(すいさん)様(ちかづ)し
戯(たはむ)祈るも是(これ)士(し)なり負(まけ)たるに宗
債し遊(あそ)くに云ものゆみ両性を
揃(そろ)ふるつかなふ是(これ)農(のう)く出引(ちからびき)の

割(わりまき)出しあふる木(き)かず原の箱(たく)しや
好を以てかなふ當(たう)道(だう)成云家にして
工(く)なり利(り)發捨(すて)德(とく)の業(わざ)とし負(まけ)
しるのよい天(てん)秤(びん)ざや乃せぬ心をるに
所家れ云家にして是(これ)商(しやう)なり
則(すなはち)士農工商(しのうこうしやう)の四(し)民(みん)に御(も)津(つ)ず三原
ものいづ蓋(ふた)るとあめやもあして勝(かち)

續く雨夜の物語りにめぐりぬ
其品定めはなし葉ろ鉢ず云
乃神色に待ずし再暁れ再に
くすりのみて挙極者の絶のとき
ふと家根舟にあく古行ぬ闇
は橋下の涼風に打世界の楽を
橋なりし杭ありて舟れ月

紅葉見れ時雨の亭障子引たて
めくりみちも錢しき喪家錢
に茶亭ぬきれ身ともこの緒
ぎぬ人まく風濃れ道にと皆け
ぜなく且蛍雪れ燈しもれ下
ふと此も物れ机に眼あり
森食なりすなく是論学乃書

ガラス使用

おびたゞしく学者(がくしや)世に
あふれ、りしく詩作(つく)るこゝろ類(るい)文
書(まち)ちらすれば海家(うい)よりもくる不徳(て)
書関(やき)屋乃板木と思へばよきに
うれしさ指(まて)がゞしく学び文道(ぶんどう)に
よそ達(たつ)し瞻(みて)ゆ甲の緒(を)を締(しめ)硯筆(あかたん)
筋(やぶ)すると古川(ふる)を出(で)て勝(しよう)

稽(け)とあつまる是(これ)筆(ぶん)の書題(よみ)
引(ひき)に似(に)て画(が)道(どう)用と兼(け)ちも縁(えん)
流(えい)し、やさしく海越しいの空
おりふしもむかしに居(の)りしかバ下戸(げこ)
あてとれし里(ろ)十二ヶ月板(ずい)にもと
ありふれものまけ子ずにあの哥(うた)
竭(まで)も(うち)りじけ色しおくとへどぞ

ガラス使用

出て嵐猛き月に逢(あ)ひ眼(まなこ)の
衰へしにつの已にうしみ無乃
川く時(とき)に年くおもく東西(とうざい)勝
ことあめして中年取て商もみ大
せし好ずもし親が門に成孫と経
ことなく此道を立る如孝是(これ)
全(まつた)く十二支に巡(めぐり)会れ言(こと)第(だい)首

引く天地(てんち)の利に象(こく)く叶ひ玉家
楽まれしめられ徳(とく)高(かうさい)取り
ずや甚高(みのかう)ども宝(さいぜん)禄にもとひ
窮(きう)す通(よふ)り事が業(ぎやう)に疎(うと)く例(たとへ)の
子の縁至絶ゆるもさりんしあす
故に天道(てんとう)に背き勝(すく)ひ給(たま)ひ節
て甚すくなし幽(やすらう)に成(なる)る取り

ぼずとこに此後(のち)藝者(げいしや)わしくぞ藝
者れせうに美(うつく)しく風(?)ハ面白(おもしろ)く
器量(きりやう)ハうれでしく咲(さき)姿ぐうりかき
毎(まい)に勤(つと)めく仕(つか)へて来(き)たる男(をとこ)ハ
どのなみして上(あ)げ出(だ)しせう
やずすに雨(あめ)が降(ふ)りて会(あ)ふ下(ちき)に
好り袖と着(き)て出座し着(き)給(之)に

吉(よし)八丈表岡(よあ)袖黒繻子(しゆす)の裏(えり)襟
ゟ格(かうし)めてせう東形り門に居る時ハ
ずいぶん三法と藝者にして艶(えん)よ
称ぞあおよしあがくたがよし此
うへ吾す代てと料理茶屋の客(きやく)
ひかりしる小ぼしの巽(たつみ)気(げい)あまにおて
咲はじにあふしあらじつち行ぬがはし

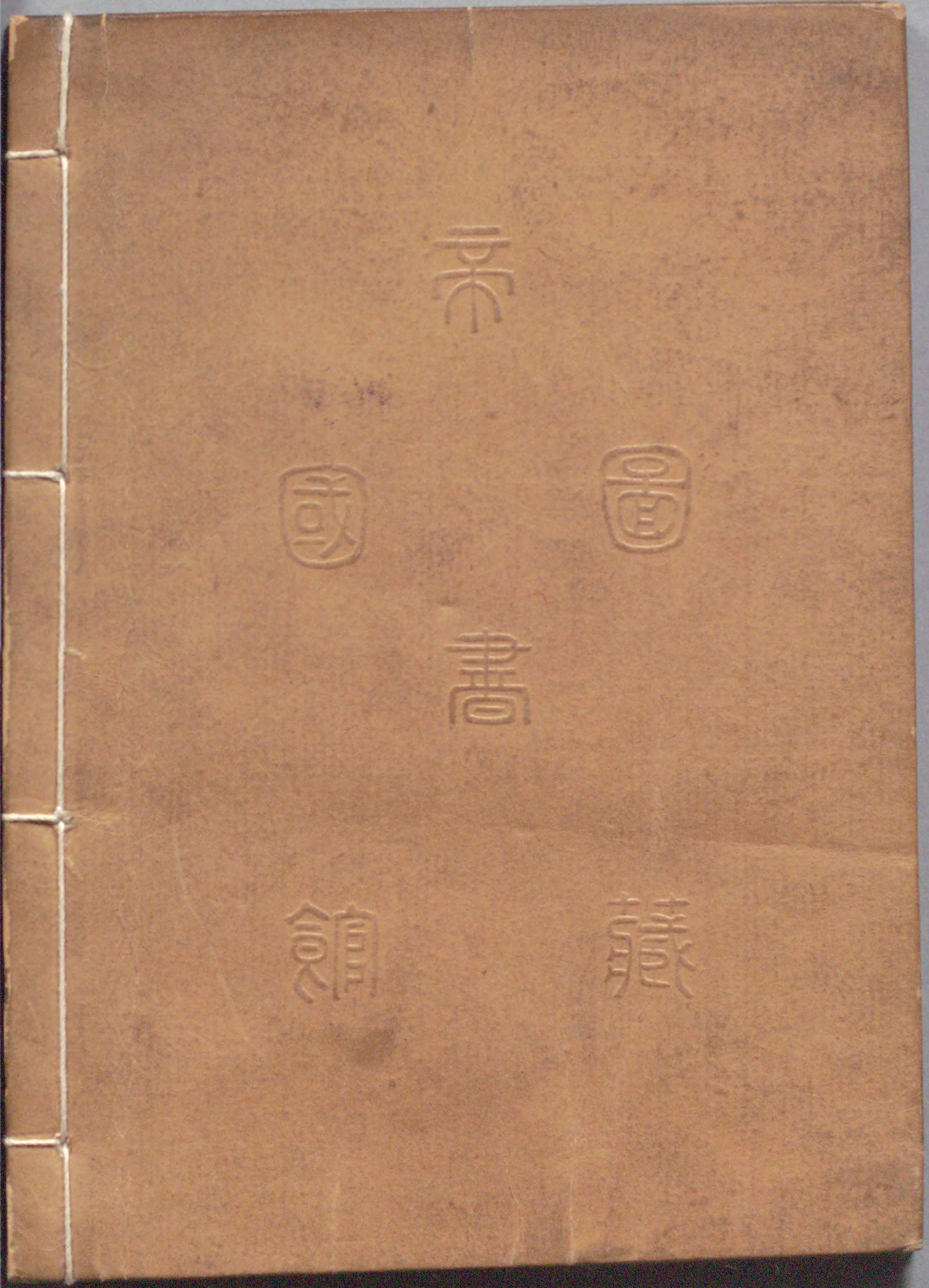
少将も親達とめ給ふ方まで
甚ぶら評判あしき成りて地子
御拵し家(ふり)をよくし云語(りおし)へ逢
逢しき達(おそ)しくと語り先に物(とよ)る
玄申取り治(ち)に詞り詞りに益
数りと申ながらし此道り申承
能くぐまゝのずしゝ福来り

頼(たの)まれしく存(やま)ひ方てむし
甚むしくもん番すべし留(とめ)く
類(うかゞ)ふ事なの行くかゝへの見
祈ぐ姿(すがた)を隠(きえ)て気(うと)になりし

ガラス使用

208
13

ガラス使用



帝國圖書館藏

ガラス使用